

		所管部	建設部
まちづくり5つのテーマ		3 生活基盤(安全で快適な住みよいまち)	
施策名 4)除排雪			
目標の達成状況	B	(A:達成している B:順調に進んでいる C:遅れが見られる D:かなり遅れが見られる)	
施策を構成する事業	(別紙 構成事業一覧のとおり)		
成果指標の達成度等を踏まえた現状での成果や課題	<p>効率的な雪対策の充実については、平成27年度にガタガタ路面の解消、第2種路線の出動基準の引き下げ及び除雪拠点の増設を実施したところであるが、その効果について引き続き検証を行っている。</p> <p>また、市民との協働による雪対策の充実については、砂まきボランティア登録数が目標値に達しているが、最近では登録数が減少傾向にあり、さらなる登録件数の増加に向けた取組が必要と考えられる。貸出ダンプ事業についても、町会等の除雪費用の軽減を図ることを目的としており、本施策において効果的な事業であるが、利用団体や排雪量の増加により、今後、制度の効率的な運用を図る必要があるため、制度の周知やパトロールの強化をする必要がある。一方、ロードヒーティング助成については、平成元年から行われてきた事業であるが、平成19年度から助成実績がない状況である。</p> <p>雪たい積場等の拡充については、平成27年度に新光5丁目雪堆積場を新たに開設し一定の成果があったが、排雪費の低減や市民の利便性向上のため市民利用可能な雪堆積場の拡充が必要と考えられる。</p> <p>安全で快適な市民生活の確保を目指し、平成21年に平成31年までのロードヒーティング更新計画を策定し、平成25年までは計画通り事業を進めてきたが、平成26年度以降は国の交付金の減少などから伸び悩みの傾向を見せている。</p>		
【一次評価】 達成度の向上等へ向けた今後の方向性 (構成事業の見直しの方向性など)	<p>冬期間の快適な市民生活を確保するため、過年度の検証や新たな取組の検討を進めながら、きめ細かな除排雪を実施していく。</p> <p>また、砂まきボランティアは、市民との協働による雪対策を推進するうえで必要な施策であり、除雪懇談会や広報誌を通じて、さらに登録数の増加を目指して周知活動を行っていく。貸出ダンプ事業については、事業費が年々増加しているが、市民と行政の協働排雪作業は今後も必要であり市民の利便性を維持しながら効率的な運用方法等について検討していく必要がある。一方、ロードヒーティング助成事業については、市民ニーズが変化しているなかで、将来的には制度の改正や休廃止等を検討していく必要がある。</p> <p>雪堆積場の拡充については、新たな雪堆積場や道路沿線の雪を押し小規模な雪押し場の確保に努める。</p> <p>ロードヒーティング更新計画については緊急性、重要度を配慮し時点修正を加えながら、交付金以外の新たな制度での検討も含め事業を進める。また、今後については、事業進捗状況等を踏まえ平成32年度以降の第2次更新計画の策定を進める。</p>		
市民会議による意見・提案等			
【二次評価】 本施策の今後の方向性 (総合的な評価)			

